

SSJ データアーカイブとホームページの紹介

松井 博

1. SSJ データアーカイブの概要

東京大学の松井でございます。私からは、SSJ データアーカイブの概要をご紹介致します。お手元の資料の中に、SSJ データアーカイブの概要というレジュメ、それから色刷りのパンフレットがあると思いますが、それらを用いてご説明します。

私どものセンターでは、現在、SSJ データアーカイブの構築を進めています。SSJ とは Social Science Japan の頭文字で、私どものデータアーカイブの名前です。データアーカイブについてはもう既にご存知の方が多いと思いますが、簡単に説明しますと、統計調査、社会調査の調査個票データを収集して、それを学術目的での二次利用のために提供する組織です。ここで調査個票データと申しましたが、SORD さんのほうでは素データと言っておられます。また、マイクロデータと言われることもあります。つまりセンターでは、SORD さんとよく似た活動を行っているわけです。調査個票データの二次利用の意義は次のとおりです。調査個票データは多くの情報を含むので、いろいろな組み合わせで集計することが考えられます。また、多変量解析のような手法を適用して分析することもできます。しかし、そういうことをすべて調査実施者が事前に考えて集計しておくのは無理です。そこで、データアーカイブを構築してそれらのデータを二次利用できるようにしておけば役立つのではないかという発想です。データアーカイブは、ご承知の通り、欧米諸

国のほとんどで設立されております。全部の国と言っていいほどです。ところが、今まで日本にはこのデータアーカイブが全くなかったわけであります。その辺の欠落を是非埋める必要があるだろうというのが我々の考え方です。わが国にデータアーカイブが存在していないなかったのは、調査を行った人に自分の調査したデータは自分のものという意識があったということがあるかも知れませんが、それよりも、自分で調査していない人が調査事項の名称だけを見て分析したりするといろいろと誤解の元になるのではないか、また、秘密保護の関係から問題が起こらないかというような心配があったことが、日本に今までデータアーカイブが存在していないかった理由ではないかと思われます。そのような問題を解決しなければいけませんが、外国の状況を見るにつけ、日本でも解決できないはずはないと考えたわけです。

説明が前後してしまいましたが、このデータアーカイブを作っているのは、東京大学社会科学研究所の付属日本社会研究情報センターです。このセンターは一昨年の5月に設置されたもので、社会科学の研究活動を支援することを目的として、データアーカイブの構築のほか、多言語環境での研究支援システムの研究なども行っております。ただし、センターでデータアーカイブの仕事を担当しているのは二人だけです。そのほか協力してもらっている人もいますが、大きな組織ではありません。それが理由ということではないですが、私どもは独力でわが国のデータを網羅

的に集めた大規模なデータアーカイブを作ろうとは全く考えておりません。むしろ、同様な活動を企画、または実施されている方と連携して、総体としてわが国の公開調査のストックを拡充していきたいと考えています。このような考え方を持った理由は、例えば、ヨーロッパでは各国のデータアーカイブが連携して CESSDA (Counselor of Europeans Social Science Data Archive) という組織を作って、そこですべての国のデータをまとめて検索できるような、そういう統合的な検索システムを作っています。また、アメリカでは、ICPSR (Inter-university Consortium for Political and Social Research) という組織があり、アメリカの各大学と協力してデータを収集し、データの提供はそこでまとめて行っています。このように最近では、インターネットで相互にリンクすることも簡単で、データアーカイブが何ヶ所かに分かれている、公開されている調査を 1ヶ所でまとめて検索できれば利用に支障はないと考えられます。ただ当然ながら、それぞれの機関でのデータ提供の基準等が違っていることは望ましくないので、そういうことを一緒に考えていくためにデータアーカイブ連絡協議会を作り、新國先生にも参加頂いています。

ここで、色刷りのパンフレットについて説明します。これは私たちのアーカイブを簡単に紹介するために作ったものですので、後程ご覧頂ければよろしいかと思います。今、私がお話したようなことが説明されています。なお、この色刷りの資料の裏面の下部の四角い枠の中に、「詳細な情報はインターネットでご覧ください」と書いてあります。このアドレス (<http://postpc.sgu.ac.jp/SOCIO/sord-hp/default.htm>) にアクセスして頂ければ、私たちのホームページを見て頂くことができます。

それではレジュメで説明します。収録している情報は、大きく分けて 3種類あります。

一つが SSJ データアーカイブで調査個票データ又は素データを提供する調査についての情報です。連合総合生活開発研究所さんからは 8 調査ほどすでに収録済みで、それ以外にも 20 数調査収録頂けるということで、現在、整理作業中です。生命保険文化センターさんからはすでに 43 の調査を頂いております。今後行われる調査も順次頂けることになっています。日本能率協会総合研究所さんからは 3 調査、全国大学生活協同組合連合会さんからは学生生活実態調査を頂けることになっておりまして、今これもデータの整理をしてもらっているところです。それ以外、国民金融公庫さんや、日本リサーチセンターさんからもデータを頂けることになっております。しかし、どの機関でも、調査が終わるとデータはどこかにしまわれ、調査の資料もしまわれ、それを探し出すのが大変で、ご苦労頂いています。なお、今のところ調査データを寄託頂いているのは大きな組織だけですが、研究者の方からのデータの寄託も、排除しているわけではありません。それから、私たちがこのデータアーカイブを作り始める時に、自分たちの持っているデータを公開していくこうという考えがありました。社会科学研究所では、戦後多数の労働関係の調査を行っています。この後、仁田から説明がありますが、それらの調査の調査票が紙の形で残っておりますので、それを再度入力する作業を行っています。1 調査が収録済み、他の 2 調査がデータ整理中です。ただし、これは機械的な作業ではなく、過去の調査を現在の視点で分析をしようという研究的な仕事になります。

次に、第二の種類の情報として、私たちのセンター以外で公開されている調査の情報を収集しています。すでに述べたとおり、利用者から見れば、どこにどういうデータがあるか一ヶ所の検索システムで分かればそれで十分であろうということで、すでに公開されて

いる調査の調査情報を、それぞれの所有者の方のご了解の下で、私どもの検索システムに収録しています。具体的には、政治意識調査データベースがあります。これはご承知だと思いますが、関西大学の三宅一郎先生が整理されたものです。戦後、米国の Roper Center が日本の世論調査などを集めたことがあります、それがカードなどの形で倉庫に詰まつていて利用しようもない状況だったのを、三宅先生が独力で利用できる形に整理し直されたわけです。大変なご功績で、169 ほどの調査があります。それから、東京大学の蒲島郁夫先生などが整理された選挙行動などに関する調査からなるレヴァイアサン・データバンクの調査があります。それから、家計経済研究所さんでは、消費生活に関するパネル調査を公開しています。これらの調査の調査情報も収録しています。

第三の種類の情報として、統計調査や社会調査に関する各種の情報を公開することにしています。具体的には、『戦後日本の労働調査』という書物に収録されている調査の情報を収録しています。それから、官庁労働統計の調査の情報を収録しています。データアーカイブ担当教授が労働統計を専門としているので、まずその部分からということで、官庁労働統計の調査情報を検索できるようにしました。それから、関連機関へのリンクもはっておりました。SORD さんも、戻りましたらリンクをはらせて頂きたいと思っております。収録した情報はこのようなものです。

次に、調査個票データ利用申請書について説明したいと思います。我々としては、調査個票データを提供することになるいろいろな手続きも必要になるので、規程とか事務手続とかそういうものを作りしっかりした形でやっていくということにしております。これは、そのうち利用申請書の部分です。研究経費の欄は、学術目的であることを確認するために入れてあります。利用目的の欄のところ

は、あまりくどくどしいことを言うつもりはありませんが、どういう目的で使われているかは押さえておきたいので書いてもらいます。調査個票データを利用者に提供するとき、寄託機関でも審査されることになりますので、このような形式で利用申請書を書いてもらうようにしました。なお、利用者は大学又は研究機関の研究者および大学院生としています。大学院生の場合は、指導教官の印を必要とします。それから、裏の面の一番下に、利用にあたっての誓約事項が記載されています。誓約事項は、提供された調査個票データは学術目的のみに利用できること、調査対象の秘密の保護を図ること、申請書に署名した者だけが使用すること、第三者には提供しないこと、使用期限終了後消去すること、論文を発表したら 2 部提出すること、論文を書く時にはデータの提供を受けたことを書くことです。それから、最後に、利用者が何らかの不利益を被っても我々は責任を負わないというのは、ESSEX 大学のデータアーカイブの例を見て念のため入れました。

2. ホームページの紹介

それではこの後、ホームページを紹介します。

【ホームページ】これが私どもの最初のページです（図 1）。ここに記載してあるように、4 月 1 日からデータの提供を開始致します。それから、画面の下部にデータを寄託いただいた機関の名称を載せております。

【データアーカイブ】次にデータアーカイブというところを見ますと、まだご存知でない方のためにデータアーカイブとは何であるかということを簡単に紹介しております。データアーカイブとは何か、それから二次的な利用の意義、さらに私どものデータアーカイブの概要と今後の計画などを載せております。参考として諸外国のデータアーカイブの紹介と、わが国で今までどういう研究・活動がな

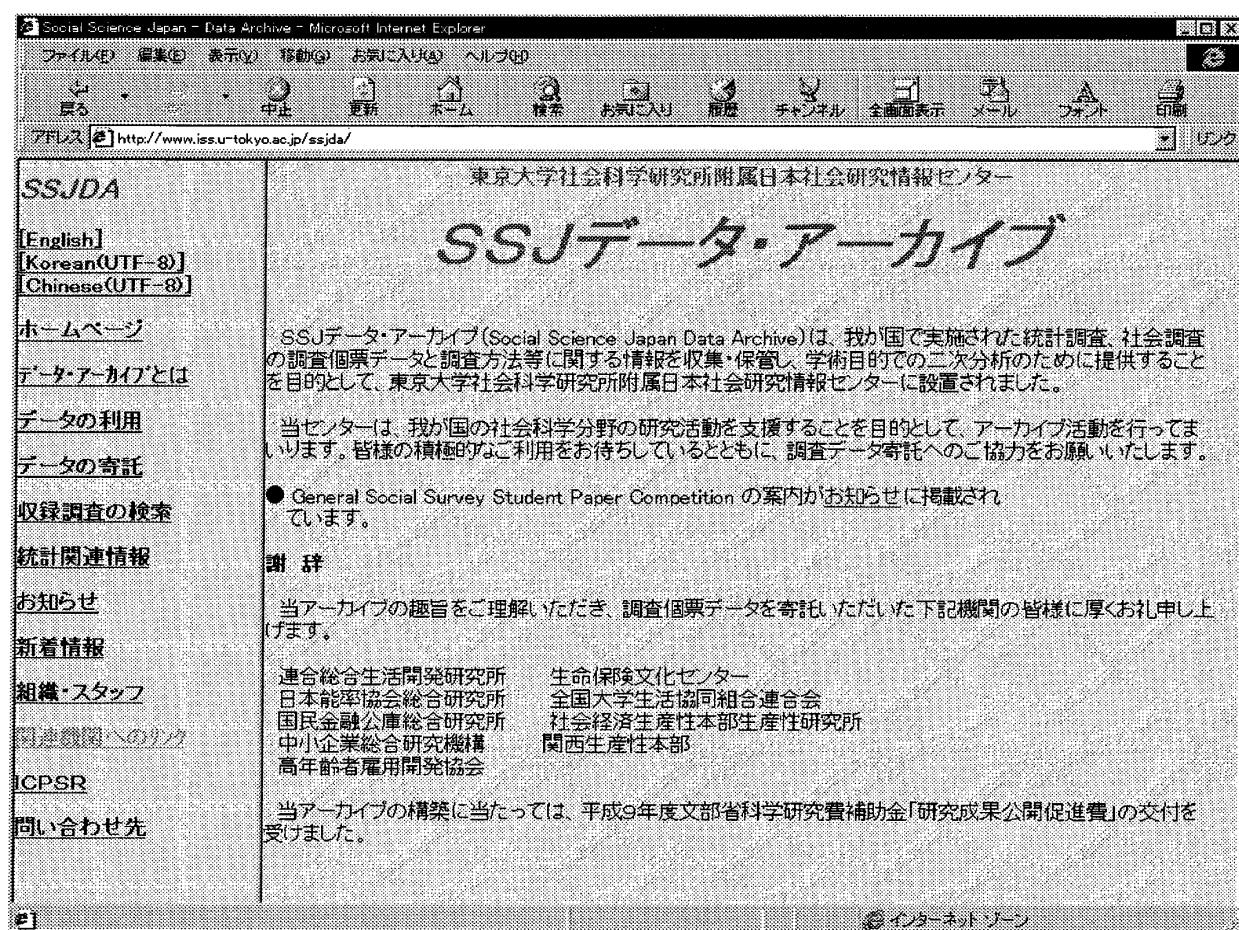


図1 「SSJ データアーカイブ」ホームページ

されてきたか簡単に紹介しています。

【データの利用】次にデータの利用ということですが、ここでは利用条件、利用の手続き、利用申請書の様式などが載っております。なお、利用申請書はこのページからダウンロードできます。

【データの寄託】次にデータの寄託ですが、ここではデータの寄託のお願いと、寄託の条件、寄託の手続き、寄託書の様式などを説明しています。寄託書は、このページからダウンロードできます。

【お知らせ】それから次に収録調査の検索のページがありますが、これはちょっと飛ばしまして、次のお知らせというところを見ます。私どもは、データアーカイブについて、関係者の意識を高め、また、その意義を理解していただく目的で、昨年度と今年度の2回公開

セミナーを開催しております。その概要を紹介しています。

【関連機関へのリンク】それから関連機関のリンクというところですが、ここでは、データを公開されている組織や機関の連絡先などを載せています。海外のデータアーカイブなどにも行けるようになっております。ちょっと見てみると、これは CESSDA の運営しているページでヨーロッパ各国のデータアーカイブの一覧が見られます。ご覧の通りヨーロッパでは各国にデータアーカイブが設置されています。ここから北アメリカも見られますが、カナダ、合衆国の両方に、多数のデータアーカイブがあります。有名な Roper センター、また、ICPSR などがあります。次に、他の世界各国のアーカイブというところを見ると、ご覧の通りイスラエル、南アフリカ、

オーストラリア、ニュージーランドの各国にあるんですが、大変残念ながら日本はこのボタンの下に隠れているという、こういう状況です。まずはここに日本のデータアーカイブを載せてもらわなければと思っています。それから、CESSDA の catalog というページを見ると、左側で国別のデータアーカイブを選択し、右側で検索用語を入れて検索する画面になっております。このようにして、ヨーロッパ各国のデータアーカイブの調査をここ一ヶ所で全部検索できるシステムが作られています。日本でも同様なシステムを用意すれば、データアーカイブが複数あっても問題ないのではないかというのが私たちの考えです。それから、これは皆様に直接には関係ないのでですが、私どもはアメリカの ICPSR に東大として加入しました。これは東大の学内だけという条件になっていますが、ICPSR 所蔵データを自由に利用できます。年会費は百万円くらいで、加入した大学内なら誰でも何回でも使えますので、これに入っておくと研究のためにかなり役に立つと思っています。まだ加入したばかりで東大内でもあまり知られていないので、利用はまだ 3 件か 4 件くらいです。

【収録調査の検索】次に、私どもの収録調査の検索システムについて説明します。全調査を見たい時は何も入力しないで検索して下さいという説明が書いてあるのでその通りにすると、4月1日から公開する調査が 56 件表示されます。ここでさらに、左側の調査番号をクリックすると、調査情報が表示されます。この調査は、日本人の生活価値観調査で、生命保険文化センターさんの調査です。1991 年の調査ですが、利用方法はどうなっているか、調査の内容はどうなっているか、調査対象、データ数、調査地点、調査地域、標本抽出のしかた、調査方法、調査実施者、調査の委託者、報告書、関連論文などの情報が入っています。なお、主要調査事項も整理していますが、それだけではどのような調査か分から

ないと考え、調査票という部分をクリックすると実際の調査票が見られるようになります。単純集計の結果も掲載しました。今見たのはテキスト形式で情報を入れていますが、テキストではなくて、表形式みたいな票もありますので、そういうものはイメージで入力しました。これはスキャナーなら簡単に入力できるので、この先テキスト形式での入力作業が間に合わなくなれば、イメージで入れてしまおうかと思っています。テキスト形式で調査票様式を入れる場合に OCR で読ませることも試しましたが、修正に結構手間がかってしましました。それから検索画面にもう一度戻りますが、調査番号と調査名の欄は、ある調査を特定したい時に使います。それから検索語で検索する方式ですが、最初いろいろと考えてみたんですが面倒になっちゃいました、全文検索が一番簡単だということなりました。ここで、結婚という言葉を入れて検索しますと、結婚という用語がある調査が 4 つほど出てきます。調査情報を表示してみると、結婚という言葉が赤い文字で出ているのがお分かりと思います。このように検索で使った用語を赤で表示するようにしています。それから、調査票を表示した時も同様に、検索に用いた用語は赤で表示されます。先ほど、わが国で公開されている調査全部がどこか一ヶ所で見られればよいというお話をしましたが、SSJ データアーカイブ以外で調査個票データを公開している調査も含めて検索したい時は、「SSJ データアーカイブ以外」というチェックボックスにマークを付けてから検索しますと、ヒット件数 236 件ということで、236 の調査が出てきます。内容は先ほど申した、政治意識調査データベースなどです。あと、技術的なことですが、全文検索には 3 つまで用語を指定でき、AND 検索が基本ですが OR 検索に変えることもできます。OR 検索にしたい理由というのは類似語の関係です。例えば収入という用語で検索すると、調

査数としては8件ほど出てきますが、給与という用語が使われていることもあると思います。そのような類似語での検索をプログラムで処理するのが面倒だったので、OR検索を用意しました。収入と給与という用語でOR検索すると、12件検索されます。

【関連情報の検索】ここで関連情報の検索を見ると、『戦後日本の労働調査』という本に収録されている調査の検索ができます。65ほどの調査が表示されます。戦後すぐのころの面白い調査があります。次に『官庁労働統計』では、現在作成されている官庁の労働統計が検索できます。70件ほど出てきます。それから、私どもの作ったシステムではないですが、ちょっと便利なので紹介しようと思っているものとして、統計刊行物と統計表の検索システムがあります。これは統計情報研究開発センターで開発しています。皆さんの研究の何かの役に立つのではないかと思いましたので、紹介します。キーワード検索で例えば失業という用語を入れると、失業という用語が結果表などの中で使用されている報告書と結果表の表題が表示されます。なかなかいいシステムだと思います。私どものシステムの紹介は以上であります。少し細かなお話まで致しましたが、それはその方がイメージがわくかと思ったからです。

3. システムの開発について

SORDさんでも関心があるかと思いますのでシステム開発の問題について少し触れておきます。私どもは、検索システムを開発する時、あまり難しいことを考えても意味はないだろうと思い、UNIX上のPerlという言語で独自のプログラムを開発しました。ごく

簡単なプログラムです。しかし、検索のシステムよりも重要と考えたのは、データの入力と更新の仕方でした。入力作業はアルバイトさんにやってもらわなければならぬので、単純な作業でなければいけないことになります。既存のデータベースのソフトを使うことも考えましたが、選択したソフトの機能で将来支障が生じないか自信がもてなかつたので、エクセル97で入力し独自プログラムで検索する方式をとりました。データをワークステーションに収録する時には、CSVファイルにしました。検索プログラムで、そのファイルをシーケンシャルに読み込んでチェックするという非常に簡単なシステムです。今のデータ量ですと処理自体は瞬間に終わってしまいます。正確に確かめてはおりませんが、今のデータ量の10倍になっても全く問題ないと思いますので、当分の間はこのシステムでやっていこうかと考えています。

次に、調査個票データをどう整理するかという問題があります。提供する調査個票データについては、内容チェックを行った上でSPSS形式に変換して保管しています。私どもはどの形式がよいかいろいろと考えたのですが、SPSSですと、利用されている方はお分かりの通り各欄にどのようなコードが出現するか指定することになっているので、SPSS形式への変換作業と同時にコード表ができてしまうという利点があります。そういうことでSPSSを基本としました。ただ利用者がSPSSをお持ちでない時は、利用者の希望に応じてエクセル形式又はテキスト形式で提供します。ちょっと細かい話が多くなりましたが、私の説明は以上です。

松井講演に対する質疑

司会(新國)：どうもありがとうございました。それではご質問等ございましたらどうぞ。

稻葉：都立大の稻葉といいます。調査個票データの提供のことに関して伺いたいんですが、学術目的に関してのみ利用することができるということですけれども、教育目的という観点からは利用できるのですか。教育の場合、例えばですね、大学院で、公開されてるデータを使って授業することは可能なのでしょうか。この場合、制約事項の第四項ですね、第三者には提供しませんというのに抵触しないのかということを伺いたいのですが。

松井：教育目的は含めます。先ほどは説明いたしましたが、共同利用者がいる時には、利用申請書の共同利用者の欄に記載することになっています。大学院生に使用させる場合は、共同利用者の欄に学生全員のサインをもらいます。ただし、学部学生の利用は原則としては認めない予定です。

田中：なかなか活動的なお仕事に感心して伺ったんですが、データを収集する場合、ここには収録と寄託と両方の用語が使われていますが、これは何か扱い方が違うんでしょうか。レジュメに「調査収録済み」と「調査寄託済み」の両方がありますが、収録と寄託とは違うのでしょうか。

松井：はい、「収録済み」と書いた方はデータベース化がすでに済んでいるものということです。「寄託済み」のほうは調査データを頂いているけれども、まだ整理が完了していないという意味です。

田中：これは、データを加工してデータベー

スとして扱えるようにする必要がどうしても出てくるわけですね。

松井：そうですね、寄託された調査個票データを提供するためには SPSS 形式に変換しなければならないわけで、これが実は大変な作業になっております。

田中：データを持っておられるところにデータをそのままにして、データアーカイブとしては所在情報検索を可能にするという方法は不可能なんでしょうか。

松井：ご指摘のような方法を採用したいと考えています。私どもで調査個票データを提供していない調査も含めて検索システムに収録し、調査の概要を見られるようにし、利用者は関連機関へのリンクのページで利用申請先を調べる方式をとります。

田中：一つの研究所で非常に多くのデータを全部収録してもつというのは不可能になりますので、それぞれ確保されたものを元のところで保管なさる。しかし、社会科学研究所の方で、データの検索なんかは非常に便利にできる。そういうのも、将来きわめて大きな規模になっていった時の一つの方法かとも感じながら伺ったのです。

松井：その通りであると思います。

仁田：補足ですが、実は、各調査団体の方に寄託をお願いにうかがった時のセールストークとしては、お宅がいつもきちんとした形でデータを持っているのは大変でしょうということは申し上げています。まして、ご自分で提供するシステムを作るのは結構大変でしょう。私共が代わりにやってあげますというこ

とで、寄託して頂いてるということがあります。かなり大きな調査機関が、簡単なソフトが開発されてシステムができあがってくれば、自力でそういうことをやるということは起こると思います。ですが、現在時点では、こちらで扱ってあげますということが、データ保有機関にとっては魅力になるという状況だと思います。

佐藤(札学大)：学院大学の佐藤といいます。企業に20年間いて、こちらにきて1年間になります。社会情報データベースに関して聞くのは、内部ではいくつか聞いていますが、東大の話は初めてで興味深く伺わせて頂きました。話の中で、今は簡易な状態、まあ初期状態ということで、エクセルとか、そういうものでデータ収集されて管理されているということなんですが、非常に心配です。市販の汎用データベース管理システムを使われていないということですが、これからいろんな形で情報が集められていくとなると、そういうものを本当に管理していく上で今の形で十分かというと非常に危惧があります。アクセス権の話とか、制約条件の指定など、文書としてはあるのかもしれません、いろんな形で情報を見せよう或いは隠そうということも必要になってくるとすれば、そういうものを今のエクセル等、或いはそれに類似したもので管理していくとすると自分で作るプログラムも多くなるでしょうし、そういうことを繰り返していくと、他から色々と使いたい或いは変換したいという時には、今の形態ではうまく行かない、利用もできないということも出てくるでしょう。また、大容量のデータを十分管理できるのだろうかと、つまり、エクセル等で本当にデータベース管理ができるかというとかなり無理があろうかと思います。このようなデータベース管理をやっていくとすると、市販のかなり高度な機能をもったデータベース管理システムの上でやっていく必要があるように思うわけです。それ

から、データベースデータを集められているわけですけれども、それに関して、色々な検索を考えることになろうかと思います。今はこういう風にやっていますというお話をされているわけですが、データベースを設計する場合にはこういう業務を考えてこういう風にするんだと、そういうアプリケーション分析を踏まえてですね、データベースを作っていくのが常套手段だと思うんです。使う方っていうのは、その生データに対して色々とビューを考える。つまり、色々な視点からデータを見るということをやるはずですね。そのところが非常に重要だと思うんです。今の段階はデータベースデータを収集しようという初期段階かもしれませんけれども、私は社会学者じゃないものですからどういう風に使われるのかよく見えないのですが、使われる立場からするとそういうことをもう少し考えて、変換機能とか他の斬新な機能等というものを、その中に最初から入れて、構築されている必要があるんじゃないかと思いますが、如何でしょうか？

松井：データベースのソフトという問題は、多分おっしゃる通りだと思います。どういう利用形態が考えられるかというところから、どのデータベースソフトを用いるか決めるのが本来だと思います。ただ、収録調査数はまだわざかですので、現在の段階でシステムの機能を決めてしまうべきではなく、どういう機能が必要か実際に使って調べてみないといけないと考えました。そこで、先程説明したような簡単なシステムにしておいて、これから先、利用者の声を聞きながら本当のシステム、最終的にはデータベースソフトを使ったものに変えるつもりでいます。ただ、現在のシステムの機能はICPSRなどのシステムと同じで、あながち今まで駄目とも言い切れないと思っております。しかし、先生のおっしゃった通り、本来的にはデータベースソフトを使うべきだと思っております。ただ、デー

タベースをエクセル97で作っていると言われますとちょっと意味が違います。入力をエクセル97で行っているということです。そしてそのデータ自体は、先ほど申したCSV形式で保存しており、これは正式な言い方をすればデータベースではありませんが、データの管理等は比較的容易であり、我々の目的には十分だということです。

佐藤(東大)：データアーカイブの話をするとデータベースと誤解されます。我々が作ろうとしているのは、調査データのあつまりをデータセットと言っていますが、データセットを保存し、二次分析のために提供する仕組みです。データセット自体は、データベースではありません。データセットに関する情報、これをメタデータと呼びますが、それをデータベース化して、検索できるようにします。つまりデータセットを探すためのインデックスです。ただし重要なのはデータセットの方で、メタデータではありません。データセットを利用者が利用しやすい形でいかに保存するかが課題です。データセットに含まれている個票を検索するように考えられる方が多いのですが、そうではないのです。

佐藤(札学大)：そういうことなんですか。生データではなくてメタデータの方の量っていうのは、そんなに多くないんですか？

佐藤(東大)：一つのデータセットについてのインデックスは、15項目程度で、情報量でもA4で2枚程度です。アメリカのデータアーカイブでもだいたい同じ方法で処理していますので、我々もやれると考えています。

佐藤(札学大)：そうすると、そのメタデータに色々な視点を組み入れた形でいろんなデータが追加される可能性はあるんですか？

佐藤(東大)：メタデータはあくまでも検索のインデックスで、研究者にとって大事なのは個々のデータセットです。ですからメタデータを使い、自分の研究に使えるデータセット

を探し、その後はデータセットを分析するというこになります。ですから研究者が、自分の研究に必要なデータセットを探すのに必要十分なメタデータのデータベースが用意できていれば十分なわけです。

佐藤(札学大)：そうですね。そのところは非常に高機能というか、そういう色々な機能が入っていないといけないと。そういうことだと思うんですね。そこを自前でこのように作っていくというのは、結構データベースとしての意味合いということにかなり入ってきます。個々のデータ、メタデータの構成等が結構意味を持つわけですから、そのようなことも管理しないといけないようなことになり、そこも自前でやっていくのは大変じゃないかなと思うわけです。むしろ色々な視点をそこに入れようとするんであれば、ましてや今そんなに大量のデータがないと言われていますから、そのような状態でそこにこそ市販の高機能なものを入れて、そういうもので色々使ってみて、市販の機能にどの程度アドオンすればいいのかという議論があってもいいかなと思うんですが。

松井：今のお話で一つ説明を忘れているのを思い出しました。調査個票データは、ネットワークには載せません。これはMOの形で保管し、利用の希望が出た時にネットワークを経由せずにデータを記録した媒体自体を渡す方式をとります。それから、分析をしようという時には、先ほどの調査情報だけでは普通不十分です。調査実施者の作成した報告書は必ず読むべき性格のものですので、そういうものをちゃんと読むように利用者を指導します。また、報告書についてはすべて私どもの方で収集し、もし手に入らなければセンターで閲覧できるようにして、誤った利用がなされないように対策をとっています。

司会(新國)：はい、どうもありがとうございました。